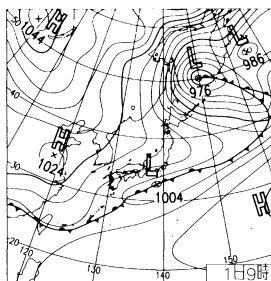


日々の天気図

— No. 26

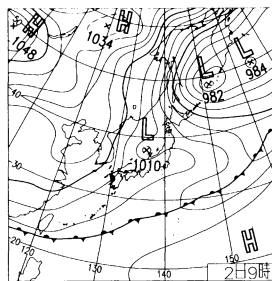
2004年3月

- 5日～6日、発達中の低気圧により宮古市で50 cm/24 hの降雪。
- 11日、寒冷前線の通過後、西日本を中心に今期初の黄砂を観測。
- 27日、発達した低気圧により、網走市で最大瞬間風速35.7 m/s。
- 30日、東・西日本の太平洋側で日雨量100 mmを超える雨。
(気象庁予報部予報課)



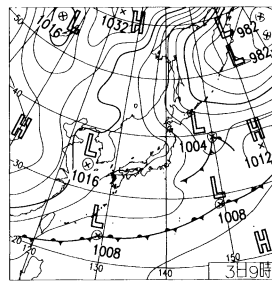
1日(月)関東地方で雪

本州南岸の前線や低気圧により、午前中を中心に東日本～奄美の広い範囲で雨。関東地方では日中、北東風の影響で気温が下がり続け、千葉県銚子市で1 cmの積雪。



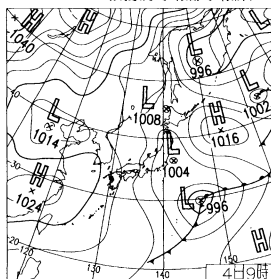
2日(火)北日本で冬型強まる

日本海の低気圧が東進し、北日本では冬型の気圧配置強まる。北陸から北日本の日本海側で雨や雪、南西諸島は前線の影響で雨。関東および北日本で真冬並の最高気温。



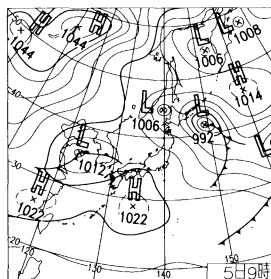
3日(水)寒いひな祭り

北日本に寒気が入り、北陸以北では雨や雪。関東以西は低気圧を含む気圧の谷の通過で全般に曇り。南西諸島は雨。最高気温は全国的に平年より低く、多くの所で真冬並。



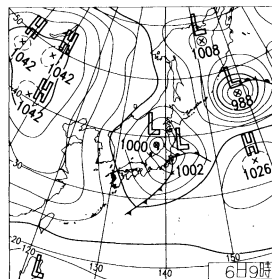
4日(木)九州北部でも雪

寒気が日本海から東シナ海方向に南下し、九州北部を含め日本海側は雪。日降雪量は新潟県高田市で28 cm、松江市で5 cm。最高気温は山陰・九州北部で平年より6～8℃低い。



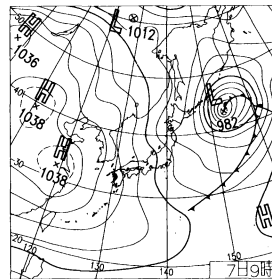
5日(金)日本海で低気圧発達

黄海の低気圧が日本海で発達し東進。北日本の日本海側を中心に雪や雨の他は晴れ。西日本では南寄りの風が強まり、室戸岬ではSW38.0 m/sの最大瞬間風速。



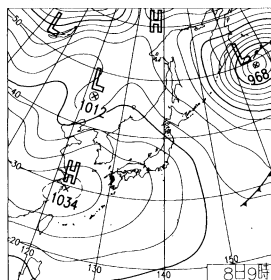
6日(土)北陸・北日本で大荒れ

発達した低気圧が東北地方を通過。その後冬型の気圧配置となり、ほぼ全国的に雪や雨。宮古市の日降雪量は41 cm。各地で強風となり、金沢市ではSW32.8 m/sの最大瞬間風速。



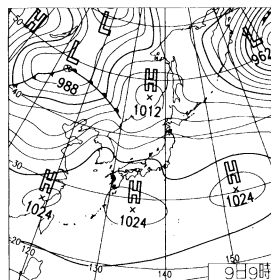
7日(日)山陰で大雪

東北の上空に-40℃の寒気が流入し、冬型の気圧配置強まる。山陰では平地でも所により20 cmを超す大雪。兵庫県豊岡市では日降雪量40 cm、3月で3位の記録。



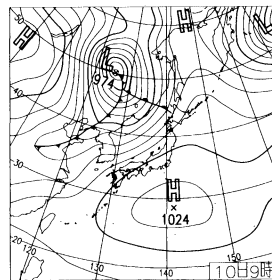
8日(月)北見枝幸で流氷終日

北海道オホーツク海沿岸は発達した低気圧の影響で西よりの風が持続。北海道北見枝幸では、平年より4日早い海明け。同時に平年より23日早い流氷終日。



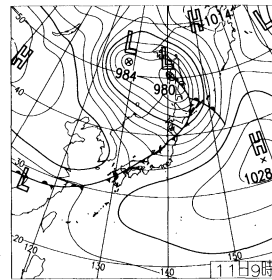
9日(火)全国的に春の陽気

本州南海上の高気圧に覆われ、北海道を除いてほぼ全国的に晴れ。3月に入って初めて日中の気温が全国的に平年を上回り、最高気温は3月中旬～下旬並。



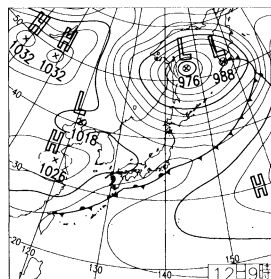
10日(水)全国的に気温が上昇

北日本を除いて全国的に晴れ。南高北低の気圧配置が続き南風が入る。最高気温は全国的に上昇、西日本では多くの所で20℃を超え、日本海側では平年より8～10℃高い。



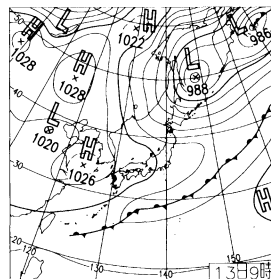
11日(木)各地で黄砂と強風

寒冷前線が日本を通過。暖かい南よりの強風が各地で吹き、東京の最大瞬間風速31.5 m/sは3月の記録。低気圧により大陸で巻き上げられた黄砂が日本各地47か所で観測される。



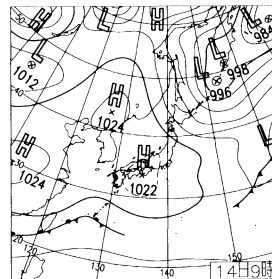
12日(金)平年並の寒さに戻る

北海道は発達した低気圧の影響で強風と雪。関東～九州の太平洋側は前線の影響で雨。その他は曇り。前線の南下に伴い、東日本・西日本の最高気温はほぼ平年並へ。



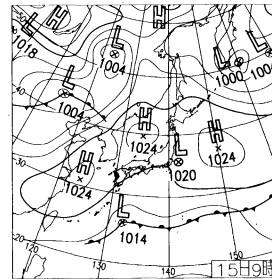
13日(土)琵琶湖開き

日本海北部に寒気が残り、北陸から北の日本海側は雨や雪。南西諸島は前線の影響で曇りや雨。その他は大陸から張り出す高気圧に覆われ晴れ。八代・鹿児島間で九州新幹線開業。



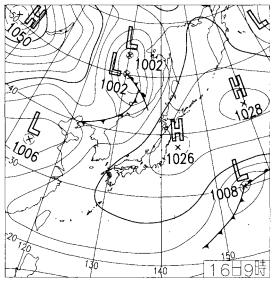
14日(日)広く高気圧に覆われる

南西諸島・九州南部は前線の影響で曇りや雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。名古屋国際女子マラソンで土佐選手が優勝。

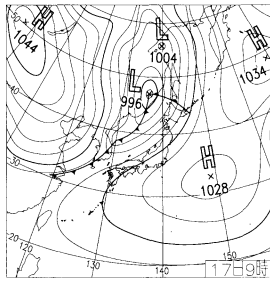


15日(月)新天体「セドナ」発見

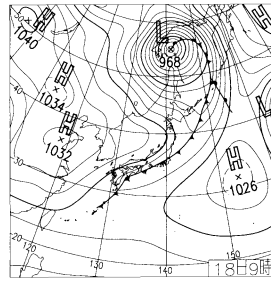
高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ。西日本の気温は4月上旬並。九州・中国・四国で黄砂飛来続く。新潟県で震度3。米国航空宇宙局、太陽系で最も外側の新天体を発見。



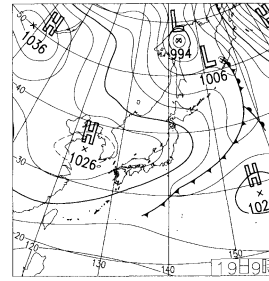
16日(火)北陸・山陰でフェーン
引き続き高気圧に覆われ全国的に晴れ。北陸から西の日本海側は南寄りの風でフェーン現象発生。平年より7~11℃高い最高気温。豊岡市では最高気温23.1℃、日較差22.4℃。



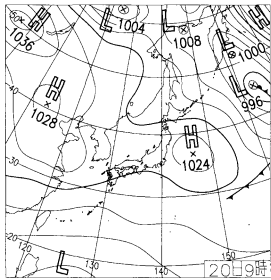
17日(水)桜開花全国で最初
沿海州の低気圧が急速に発達。全国的に強い南寄りの風が吹き、気温が上昇。青森の最高気温20℃。福岡・宇和島で、全国で一番早くソメイヨシノが開花。



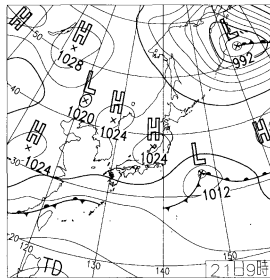
18日(木)寒気が流れ込む
寒冷前線が日本列島を南下。北陸と北日本は雨や雪。関東以西は雨。前線の南下に伴い西日本から天気回復、気温は急激に下がる。東京・横浜・静岡で桜の開花。



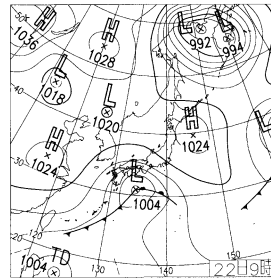
19日(金)西日本で桜開花
北海道の日本海側で雪の他は、高気圧に覆われ概ね晴れ。気温は関東以北では平年並か低く、西日本はほぼ平年並。九州北部~近畿南部で桜が開花。広島では最も早い開花。



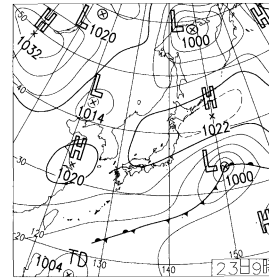
20日(土)河口湖で6cmの降雪
関東以西は高気圧が北に偏る「北高型」の気圧配置で、関東~近畿で雨。特に関東では低気圧発生に伴う北東気流の影響で日中に気温が下がり、一部ではみぞれや雪。



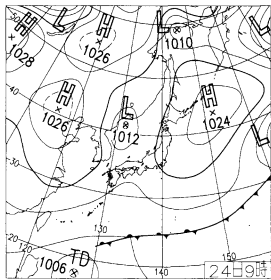
21日(日)東シナ海で前線が顕在化
東シナ海で前線の活動が強まり、九州~沖縄で雨。北日本は概ね晴れ。その他は高気圧の南側となり全般に曇り。松江では平年より13日早い桜の開花で、最早記録。



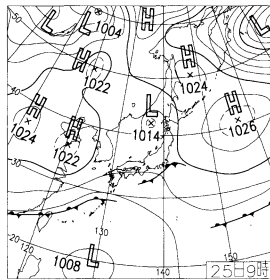
22日(月)南岸低気圧東進
前線を伴った低気圧が本州南岸を東進。東北南部~南西諸島で雨だが、長野県を中心とした内陸部では雪。北海道は東海上の高気圧に覆われて晴れ。大島で日雨量57mm。



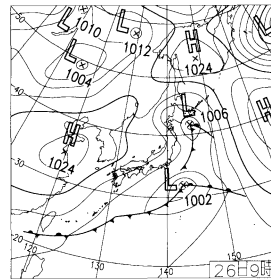
23日(火)関東は真冬並
東北部・関東では低気圧の影響が残る午前中雨。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れるが、その他は上空の気圧の谷の影響で全般に曇り。関東の最高気温は北東風の影響で真冬並。



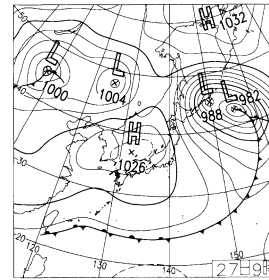
24日(水)桜開花甲信へ
西日本~南西諸島には動きの遅い気圧の谷があり、東~西日本の太平洋側で雨。その他は概ね晴れ。関東南部には引き続き冷たい北東風入る。甲府では平年より5日早い桜の開花。



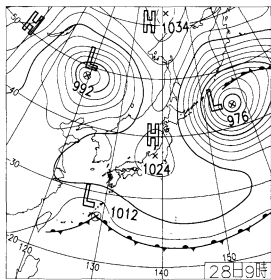
25日(木)桜の開花足踏み
気圧の谷の接近で本州南海上の前線の活動が活発化し、東海~西日本で広く雨。その他は厚い上・中層雲に覆われ曇り。最高気温は全国的に平年並か低く、桜の開花は足踏み。



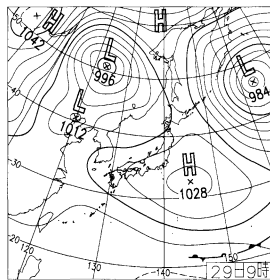
26日(金)北日本一時的に冬型
低気圧の東進に伴い、北日本は一時的に冬型の気圧配置となり、雨や雪。南西諸島は前線の影響で雨。その他は次第に移動性高気圧に覆われ晴れ。東京は5日ぶりの晴れ。



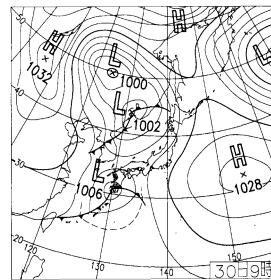
27日(土)北海道東部暴風雪
低気圧が千島付近で発達し、北海道オホーツク海側では暴風雪。根室ではNW23.1m/sの最大風速。南西諸島は低気圧や前線により雨。その他は移動性高気圧に覆われ晴れ。



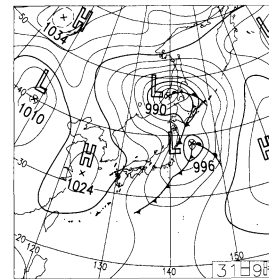
28日(日)絶好の行楽日和
南西諸島は前線が停滞し雨。その他は移動性高気圧に広く覆われ、晴れ。気温も平年より高く4月中~下旬並のほかほか陽気。北陸で桜が開花。



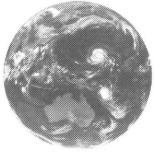
29日(月)桜満開全国で最初
高気圧の中心は東海上に進んだが、引き続き日本付近に張り出す。ほぼ全国的に晴れて最高気温は4月下旬~5月中旬並。富山では今季初の夏日。東京・米子・鳥取で桜が満開。



30日(火)南岸低気圧で大雨
低気圧が北海道と本州南岸を発達しながら東進し、北日本の日本海側と東~西日本で広範囲に雨。高知県で日雨量143mm。神奈川県三浦市では60mm/hの非常に激しい雨。

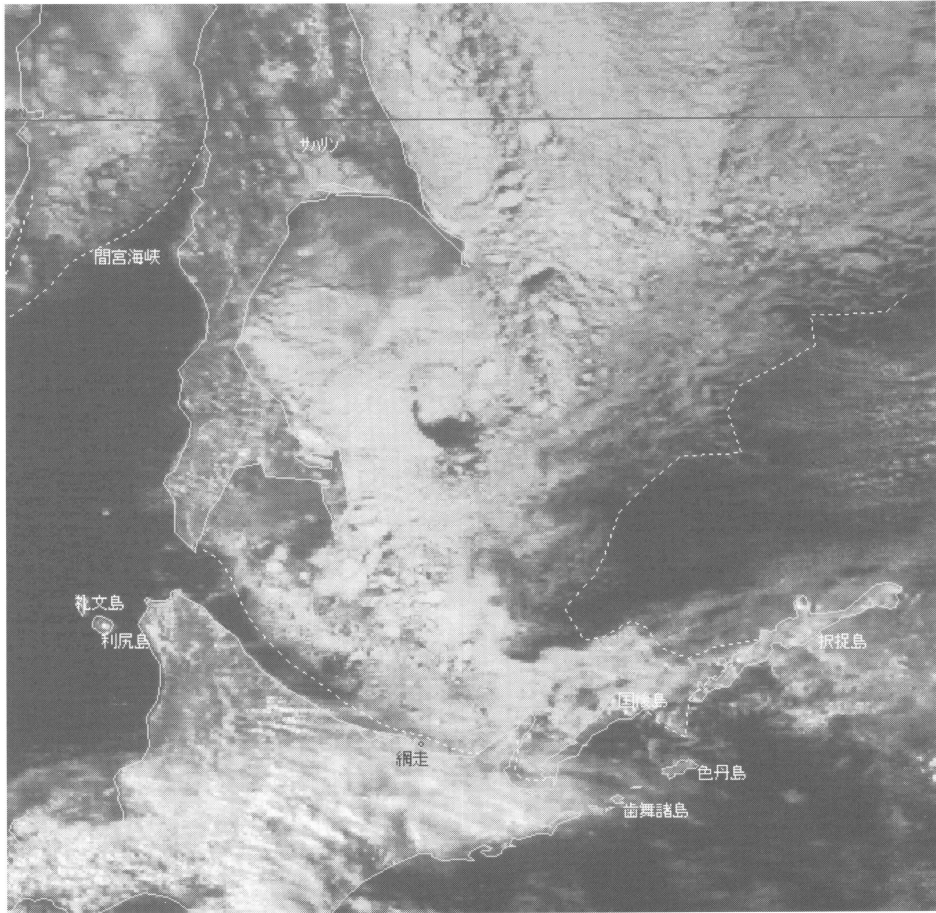


31日(水)西日本で黄砂観測
北海道は低気圧の影響で午後から雪。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。最高気温は全国的に平年より高め。関東以西の11観測点で桜が満開。西日本の広い範囲で黄砂を観測。



今月の気象衛星画像—2004年3月

オホーツク海の流氷と海明け*



2004年3月9日15時の可視画像

気象庁では船舶の安全運行に寄与するためオホーツク海の海水に関する「全般海水情報」を発表している。海水の観測や状況掌握には目視の他、航空機やレーダーなども使用しているが、気象衛星の画像も重要な情報源である。写真は網走地方が海明け*した9日15時の可視画像である。海水は太陽光線の反射率が大きく、また動きが非常に遅いため上空に雲がなければ可視画像による判別は容易である。この時間オホーツク海上には雲がほとんど見られず、破線で示した北海道オホーツク海沿岸・択捉島付近から北の海上や間宮海峡に白く見える所はすべて海水である。

網走地方の2004年2月の月平均気温は -4.1°C で、平年より 2.5°C 高く経過した影響もあってか平年より15日、昨年より37日早い海明けとなり、さらに流氷は融解などによる退去が進んで、地上からの目視観測では3月24日を最後に視界から消え、観測史上2番目に早い流氷終日となった。

(海明け、流氷終日は網走地方気象台発表の資料による)

(気象衛星センター)

*海明け：全水量が5割以下になり、かつ沿岸水路ができて船舶の航行が可能になった最初の日。